

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 設立記念式典 理事長挨拶
平成22年4月1日

今日の日を待っていたように春の陽気になり、桜が満開になりそうです。

職員のみなさん、いよいよ船出の時が来ました。みなさんは、新しい衣にすでに着替えられたでしょうか？この春入職された新人の皆様、他の施設から異動された方々、一緒にこの船に乗り込み、船の帆を張り、世界に向かってこの船を走らせましょう。

今日から、私たちは国立の職員ではありません。公務員ではありません。親方日の丸もありません。

独立行政法人国立精神・神経医療研究センターの職員です。

この長い名前を早く覚えましょう。

「病院と研究所が一体となり、精神・神経疾患等の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに先駆的医療を提供するとともに、全国への普及をはかること」
これがわがセンターの理念です。ぜひ諳んじられるようになってください。

わが独法センターに課せられるミッションについてそのポイントを申し上げます。

わが独法センターのミッションの第一は、

「高度先駆的医療の開発及び標準医療の確立のため、臨床を指向した研究を推進し、優れた研究・開発成果を断続的に生み出していくこと。そのための研究基盤強化に努めること」
です。

第二のミッションは

1) 高度先駆的医療の提供 2) 患者との信頼関係の構築 3) チーム医療の推進 4) 入院時から地域ケアを見通した医療の提供 5) 医療安全管理体制の充実です。

ここで強調したい2つの点があります。そのひとつは医療事故などのアクシデントに対する迅速な対応、危機管理体制の確立です。他のひとつはこれからの医療はサービスの意識をどれだけ身につけるかで運命が決まります。とかくこれまで国立は上から目線に対応すると批判をされてきました。これを機に患者サービスの視点を浸透してください。

第三は業務運営の効率化です。

業務の質の向上、効率的運営をはかるための取り組み、電子化、財務内容の改善などがポイントになります。

これらの目標を達成すべく、私たちは中期計画を立てて、これらを5年間で実行することになります。

次にわが独法センターの組織について、すこしお話ししたいと思います。

これまでと大きく異なる点のみ挙げてみますが、まず、独法法人の最高決定機関は理事会になります。

理事会は理事長と4名の理事から構成されます。後ほど理事・幹部の紹介を致します。

従来の運営局は廃止され、新たに事務部門に3つの部が置かれます。総務部、企画経営部、財務経理部の3部です。

組織としては、理事長の下の両研究所長、病院長、TMC長、総務部長、企画経営部長、財務経理部長が配置される形になります。

もうひとつの変化は理事長の下に企画戦略室が置かれることです。これからのセンターの発展のために情報を収集し、新たな事業の企画立案をする機能と、センター内各部門からの情報を収集整理

して理事長に提供する、あるいは部門間の調整を行うことが役割です。

これまでは運営会議が最高決定機関でしたが、これからは理事会が決定機関となり、運営会議はこれを執行する機関であり、そのための具体案を協議する会議になります。その構成は理事長、理事、企画戦略室長、両研究所長、病院長、TMC長、副院長、看護部長、総務部長、企画経営部長、財務経理部長からなります。

その他の会議は見直しをして、できるだけ実質的に意味のある会議で構成していく予定です。

独法化により、国立であるが故の制約や縛りがなくなり、より自由度の高い活動ができるようになります。そこには組織としての規律、規範は当然必要ですが、それは理事長の責任において決めることができる点で国立の時代とは異なります。できるだけ職員のみなさんが当センターの発展のために存分に活動できるよう、またみなさんの自由な発想や提案が実現できるよう、理事長として最大限努力する所存です。

以上のような研究開発を中心に据えた新しい独法組織を実のあるものにし、自分たちの手で、自分たちの創意と工夫を駆使して、われわれのセンターを発展させて行きましょう。

新ナショナル・センターを軌道にのせるには、職員全員が一丸となって前進することが大切です。いよいよ船出です。これからの5年間の航海に出ますが、ぜひ5年後には一回り大きくなった船で最初の航海を終えたいものです。

私も全力を尽くして、この船のかじ取りをして参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

Change! Chance! Challenge!

<記念式典の風景>



